

北海道優良品種に指定された

チモシー北王(雪印改良種)

兼子達夫

シ「北系四三〇五」および「北王」がその多収性・耐病性等を認められ、優良品種の指定を受け、まもなく北海道奨励品種に決定されようとしている。

「北系四三〇五」は北見農試・牧草育種指定試験地の育成による新品種で、早生多葉の採草型品種であり、「北王」は早生多葉の採草型品種で以前に「雪印改良種」と称していたものである。両品種とも直立性で草丈伸長し、二~三回刈取りに適する

が「北系四三〇五」は一番草で特に多収を示すのに対して、「北王」は二~三番草の再生が比較的的良好な特性を有している。

また種子の供給面で「北系四三〇五」は目下増殖中であるが、「北王」はすでに昭和二十五年から発売開始され道内酪農家間で馴じみの深いものとなり、現在約六〇ヶの種子量が証明種子として一般酪農家あるいは大中規模草地造成等に利用されている。

この栄えある機会に「北王」の来歴・育成経過をふりかえり、特性概要および多収性等について記述してみたいと思います。

戦前、北農試畜産部(眞駒内)においてソ連ウクライナ地方より導入した系統で、その後江別市西野幌機農学校の小川義雄氏が保存していくものである。

一 育種材料の來歴

1 育成方法 集団選抜法(タイプの濃厚化を目的として成群選抜を実施)

第1表 生育および特性調査

(道内試験場成績より抜萃)

品種系統名	出穂期(月・日)				草丈cm(1番草)				耐病性(1番草)				葉部率(1番草)					
	根鉗	北見	天塩	北農試	根鉗	北見	天塩	北農試	根鉗	北見	天塩	北農試	根鉗	北見	天塩	北農試		
第二年目	北海道在来種	6.22	6.15	6.21	6.20	116	109	103	120	4.3	5.0	5.0	2.7	5.0	3.7	20	23	5.0
	クライマックス	23	18	23	—	118	111	104	127	4.0	5.0	5.7	4.0	5.0	6.3	22	28	3.7
	北系4305	22	15	22	21	115	108	101	120	5.0	5.0	6.7	4.2	5.0	7.0	23	25	5.3
	北王	21	15	21	20	113	104	104	118	4.7	5.0	6.0	3.8	5.0	4.3	21	31	4.7
	改良在来種	20	15	21	20	117	110	106	125	4.3	4.0	6.3	4.2	5.0	4.3	23	27	4
第三年目	北海道在来種	6.22	6.14	6.21	6.19	89	93	104	110	7.7	4.3	3.3	4	9	35	40	23	25
	クライマックス	23	17	23	22	90	98	103	115	8.7	4.3	4.0	4	9	41	42	25	—
	北系4305	22	14	21	24	91	97	104	110	8.7	4.7	3.8	4	9	44	39	24	24
	北王	21	13	20	18	98	98	108	115	9.0	4.3	3.3	4	9	36	38	23	24
	改良在来種	21	13	19	17	88	100	108	115	8.7	3.7	3.8	4	9	37	36	24	23

備考 斑は斑点病、条は条葉枯病で、数字の大きいほど耐病性は強い。

第2表 生草収量調査(kg/a)

昭41~43

品種系統名	試験地 年次	根鉗				北見				天塩				北農試(札幌)				合計	同比	左率	有意差範囲
		1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計				
北海道在来種	55	377	228	659	146	371	298	815	295	673	458	1,426	50	398	238	686	3,586	100	d		
クライマックス	79	385	232	676	144	376	321	842	331	666	507	1,505	45	391	273	710	3,733	104	cd		
北系4305	94	417	253	764	140	428	331	899	425	723	505	1,653	62	437	286	786	4,102	114a			
北王	88	393	247	727	154	405	341	901	395	727	530	1,652	60	434	280	775	4,055	113ab			
改良在来種	79	384	243	707	142	414	351	907	403	674	496	1,572	44	413	247	703	3,889	108	c		

口 均齊性検定 ハ 隔離圃場における原種生産

が、No.2で得られたので地方適応性（主として道東、道北）調査のため一部種子を外部に配布し、これを「雪印改良一号」と命名した。

⑤ 昭和二六年以降、原種圃での集団淘汰と採種子による生産力検定を継続し今日に至っている。

⑥ 昭和四一～四三年、チモシー系統適応性検定試験に参考品種として供試。

⑦ 昭和四二年、ホクオウ「北王」と命名

三 特性概要

2 育種目標 早生（赤クローバー在来種との刈取時の一一致）、大葉、多収（茎数型）

3 育成経過

① 昭和一八一九年、右記母材から約一五〇個体を選び、各個体を四つに株分けし四隔離圃場に混植。表現型による成群選抜を行ない集団採種した。

② 昭和二〇一二二年、上記四集団約二〇〇〇個体を栽植し異型ならびに不良の個体を淘汰し各群別に五〇〇～六〇〇個体の集団採種を行なった。

③ 昭和二三一五年、集団種子を用いて次の試験ならびに原種生産に供試した。



刈取適期のチモシー北王

出穂期は第一表に見られるように、早生系に属し北海道在来種とほぼ同時期であり、クライマックスに比し二～三日早い。さらに二番草、三番草では北海道在来種よりも出穂期が早まり穂揃いが整一となる特性を有している。これは二、三番草の刈取時期を早め収量を高めるのに役立つている（第三表参照）。

直立型で、一番草の草丈は在来種やクライマックスに比しやや低いが、出穂茎数多く茎数型の品種である。また葉は大きいが葉部率はやや低い傾向があり、したがって生草収量よりも乾物収量の生産性が優る傾向にある。

チモシーの病害に斑点病と条葉枯病があるが、「北王」は道東道北地方の主たる病害となっている斑点病に対しても抵抗力を示している。条葉枯病の品種間差は少い。

第3表 生草収量調査 (kg/a)

上野幌育種場 昭41～43

年 番草 品種名	1年目		2年目			3年目			合計	同左比率	有意差範囲	
	I	II	I	II	III	計	I	II	III	計		
北海道在来種	144	338	131	88	607	331	151	62	544	1,294	100	b
クライマックス	132	398	132	71	601	348	127	64	539	1,272	98	b
北 王	158	377	152	100	629	375	182	72	628	1,415	109	a
Heidemij	110	385	101	61	547	294	141	61	496	1,153	89	c
King	140	307	113	60	480	275	143	66	484	1,104	85	c

四 生草収量

第二表は道内各試験場で行なわれた収量調査成績であり、試験場所あるいは年次により多少差違はあるようであるが、「北王」は各試験場において好成績を示し、合計では「北系四三〇五」に次いで多収であり、北海道在来種に比し一三%増収。統計的分析の結果でも右端のようにランクづけられ、優良品種と認定されたわけである。

また第三表は育成場所、上野幌育種場における収量調査成績であるが、ここでも「北王」は在来種に比し約一〇%の増収となっている。二年目、三年目の一番草を見るところ、「北王」は必ずしも最多収ではないが、二番草、三番草において断然他品種より優つており再生力の旺盛なことが明瞭である。前にも述べた通り二、三番草の出穂が早く、他品種より穂揃いが良いため、このような差が生じたわけで二～三回刈りに適した品種ということができるよう。すなわち赤クローバー、オーチャードグラス、メドウフエスク等再生の早い草種と混播し競合させて行く場合に、チモシーの最大の欠点である再生の弱さを或程度補ってくれるものと期待している。

今後、さらに牧草の育種研究は進展し、より優れた特性あるいは生産力を有する優良品種が続々と育成発表され、良好な草地が造成されることであろう。チモシーの一層すばらしい採草型品種、放牧型品種の出現を祈りつつ「北王」の紹介を終ります。（雪印種苗上野幌育種場長代理）